

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|----------|
| 事業所番号 | 4390100768 | | |
| 法人名 | 有限会社 ゆうしん | | |
| 事業所名 | グループホーム ゆうしん三丁目 | | |
| 所在地 | 熊本市西区野中3丁目7-27 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年9月24日 | 評価結果市町村受理日 | 26年12月2日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|--------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構 |
| 所在地 | 熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205 |
| 訪問調査日 | 平成26年10月8日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ゆっくりとした時間の流れの中で、ご利用者の個々のペースで過ごしていただけるように工夫しています。職員も一緒にお茶の時間や散歩を楽しみ、共に生活する者同士として協力して、家事等を行っています。
 ・スタッフミーティングやカンファレンスを実施して、意見交換を行い、全員で課題に取り組んでいます。又、勉強会や研修会に参加して、個人のスキルアップに努めています。
 ・自治会の行事に参加して交流を深めたり、運営推進会議では情報や意見の交換を行い、地域の一人として協力できるように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

熊本を代表する金峰山を眺めながら、入居者は開放的な空間の中でゆったりとした日常を過ごしている。「地域とひとつとなっていくような存在になりたい」との願いを込めて『ゆうしん三丁目』と名付けられ、この一年も運営推進会議メンバーによるアドバイスを活用しながら、ホームに出来る地域貢献に努めたことが確認された。管理者は地域の特性を踏まえながら、更にこの地に根ざして行きたいと意欲を語っている。経験ある職員と共に、「自分に何が出来るか、本当のサービスとは何か」、真摯に現場に向き合い思いを熱く語る若い職員の姿が頼もしく、明るい介護の現場を想像できるものであった。この数年で大きく様変わりした地域であるが、まだまだ自然環境も多く残るこの地で、今後も入居者にとって最良の時間が過ごせるホームとなっていくことに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|--|---|---|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 毎日の朝礼の時に、法人の綱領と、グループホームの基本理念をスタッフ全員で復唱して、実践に繋げている。 | 開所時より基本理念の唱和により職員の共有や意識づけの機会としている。また、ホーム内の掲示は家族をはじめ来訪者への啓発に繋がっている。法人の幹部職員も機会あるごとにホームを訪れ、理念に沿ったケアの重要性や浸透状況を確認しながら指導を行うなど、法人全体でホームを支える体制が確立している。 | 家族と共にホームのよき支援者でもある推進会議のメンバーに対して、年度初めなど様々な機会に理念や方針などを伝えることで、更にホームへの理解に繋がっていくと思われる。また、ホーム独自の目標(年・月・週など)を掲げることで、より利用者・家族の満足となるサービスが展開されることが期待される。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 散歩や買い物に出かけたり、地域のイベントに参加して、地域の方との交流を図っている。 | 「グループホームゆうしん三丁目」という名称は、野中三丁目という地域とひとつになっていける存在になりたいという願いをこめて名付けられたものである。年二回の地域清掃には自治会の一員として職員が参加する他、イベント(夏まつり・文化祭など)にも積極的に出向き交流の機会を図っている。管理者は今後も認知症の専門事業所としての地域貢献や、気軽に立ち寄れるホームを目指して行きたいと語っている。 | ホームの案内パンフレットには、『地域交流室』の紹介もされており、この場所が活用されて行くことに期待したい。また、地域の小・中学生の福祉体験受け入れなども引き続き働き掛けを行っていただきたい。入居者の笑顔を引き出す機会が増していくと思われる。取り組みに期待します。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の方たちと話し合い、認知症の理解を深めていただけるように、情報交換を行っている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | ご利用者の日頃の様子を報告して、地域の方々やご家族からの意見をいただき、スタッフ間で意見を検討してサービスの向上に繋げている。 | 地域代表者(社協会長や民生児童委員・消防団代表など)や家族、包括職員などをメンバーとして定期的な開催されている。ホームの現況や活動報告の他、避難訓練後は、反省や意見交換を行い次回に活かすことを確認したり、外部評価についても結果を報告し質問を受けている。消防団代表者から協力体制について述べられたり、家族からは目標達成に向けた取り組みについて(外出支援)率直な提案を受けるなど、有意義に進められている。 | 今後は可能な限り職員も輪番で参加できる機会を持つことで、ホーム職員としての自覚や地域の中で過ごすことの意義などを更に深めることができると思われる。また、会議録の参加者名にその方の役職や立場などを加えることで、発言内容がより理解でき伝わるものと思われる。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 月1回訪問される介護相談員の方と情報を共有しながら、関係協力を築いている。 | 推進会議には包括職員の参加が得られ、公的な立場としてその都度アドバイスや指導を受けている。また、介護相談員の来所時には、入居者と直接会話をしてもらい報告書を受けているが、内容は入居者の様子が細やかにまとめられており、改善に結びつく貴重なものとなっている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 定期的に研修を実施して、積極的に参加しながら学んだ知識を生かして、努力している。 | 研修会の中で拘束に対して正しい認識を共有する他、普段の関わりで管理者は気づいた事を会議や申し送り時にも指導を行っている。また、センサーマットについては、家族へ説明や了解のもと使用している。帰宅願望の方へも寄り添いながら本人の動きを尊重した支援を検討し取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 身体拘束と同様に研修に参加しながら、スタッフ同士話し合い、確認し合って虐待防止に努めている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見人を活用されているご利用者もおられるので、解らない事は直接尋ねたりしている。又、研修を通して制度の理解を深める努力をしている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 改定時にはお知らせを行い個別に説明して、理解、納得をいただいてから、署名、捺印をいただいている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議にご家族も参加していただき、意見を外部の方にも聞いていただく機会を設けている。又、面会に来られた時には、日々の状況を伝えている。 | 入居者の意見や要望はあらたまった機会ではなく、普段の関わりの中で確認している。家族については推進会議の席や、面会時などに近況を伝えながら何か気づかれたことや要望を尋ねている。入所時にはホーム内外の相談窓口についても説明を行っている。推進会議の奏で、歌のボランティアの来所時に入居者に馴染みのない歌であったため、せっかくの機会が残念であったとの声が上がリ、事前の打ち合わせの必要性が課題となったようである。 | 家族からの意見や要望は入居者本人のサービスの向上に繋がるものであり、今後は満足度を確認するアンケートの実施も一案と思われる。全職員で内容を検討し取り組まれることに期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月1回のスタッフミーティングで意見を出しており、上司の参加もある。又、定期的に個別面談を行い一人一人が意見を出す事ができる機会がある。 | 法人の幹部職員も会議に加え、可能な限りホームを訪れ管理者からの報告を受けたり、職員とコミュニケーションを図りながら要望などを確認している。また、今年度は4月と9月に個人面談が開催されている。両ユニットの管理者は日常の業務に共に携わっており、今後も職員の意見や要望が出しやすい雰囲気にならめながら、改善点に対応していきたい意向である。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 定期的に個人面談を行う事で、スタッフ一人一人の要望や意見、目標等を把握して、職場環境の整備、向上に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 定期的な社内研修の計画があり、実施されている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホームのブロック会や、同法人のグループホームとの意見交換等を行い、情報交換や交流を行っている。 | | |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ご本人が困っている事に耳を傾けたり、推察する事で、信頼関係の構築を計り、ご本人が穏やかに過ごされるように全員で努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族が不安を持たれないようにする事を第一に、ご家族との信頼関係を深める為にも、面会時には密にコミュニケーションが取れるように全員で心掛けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人との会話や観察を行いながら、特にご家族との連携を密に取り、必要とされるサービスを全員で検討している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 日常の家事(炊事、洗濯物たたみ、おしぼり巻き)等を共に行うことにより、生活の一体感をお持ちいただけるような関係作りに努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族の面会時等に、ご本人の日頃の生活情報をお伝えし、共により良い方法を模索出来る関係作りに努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご家族や知人の方が面会に来やすい環境作りに努め、ご家族同伴の外出や外泊の支援も行っている。 | 大切な家族や知人が訪れやすいホームの雰囲気を心がけ、訪問時は居室やホールでゆっくり過ごしてもらえるように配慮している。また、外出支援や誕生日祝いの外泊など家族の協力も得られている。調理や食器拭きなどの家事も女性利用者にとっては慣れ親しんだものであり、役割や楽しみの作業として取り組んでいる。 | 入居者・家族にとってホームや職員が何よりの馴染みの場所。人となっていくことに期待します。このことが安心や信頼関係を深める事に繋がっていくと思われれます。また、ホームは自然も残る環境であり、入居者と一緒にじゅずの採取や活用など職員の工夫した活動に期待したい。 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ご本人の個性を尊重したうえで、それぞれの行動を把握してご利用者同士が関わり合えるような支援を全員で心がけている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居後もご家族からの相談があれば応じており、出来る事を支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご本人と会話から本人の思いを聞き、本人の意思確認が困難な時はご家族との話し合いを行い、それに沿った支援を行い、本人らしい生活が出来るように取り組んでいる。 | 職員は本人との会話や関わりの中で思いや意向を把握する他、家族からの情報も大切に本人本位の生活ができるよう検討を行っている。また、職員一人ひとりの気づきが重要であり、会議や申し送りに加え、記録物を共有していくことが指導されている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前にご本人やご家族から話を聞いて、集めた情報をスタッフ全員で把握、共有している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ご本人の生活歴や、日常の生活の中での会話や行動を分析して、現状の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 定期的カンファレンス等を行い、サービス内容の検討や変更、継続の有無を話し合い、状態に変化があれば、介護計画の見直しを行っている。 | 「多くの気づきが入居者を支えていく」という考えのもと、職員3人で3名の入居者を担当している。プランは、担当者会議や他の職員の意見も活かし作成されている。基本的に半年ごとに見直しを行っているが、月1回のケアカンファレンスの中で心身の状態や退院後の対応を検討し、現況に即したプランとしている。 | 今後も作成されたプランが家族へわかりやすく説明されることや、内容を共有される事に努めていかれることに期待します。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | その都度記録を書き、スタッフ間で情報を共有して、内容を検討しながら、ご本人にとって必要な支援が出来るように取り組んでいる。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご本人やご家族の要望があれば検討して、内容に応じて柔軟な対応が出来るように努力している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の夏祭りや文化祭、公民館での健康体操への参加を行い、地域の方との交流を行っている。又、ホームで認知症サポーターの養成講座を行い、認知症の理解を深める事で地域で安心して暮らす事が出来るように支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 訪問診療の利用により医師、ご家族、スタッフが連携して、適切な診療が受けられるように支援している。入所前からのかかりつけ医を利用継続される場合もホームとの情報の共有を行い、受診の支援を行っている。 | 入居時にこれまでのかかりつけ医を継続できることと併せ、協力医による訪問診療の説明を行ない、本人・家族の意向を確認したうえで、決定している。現在、殆どの入居者が協力医による支援を受けているが、家族による以前からのかかりつけ医への受診も行われている。また、皮膚科や眼科などの受診の際は主治医に相談し、適切な助言を得てホームから同行することとしている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 定期的な訪問看護の利用も新たに加えて、より良いケアが提供出来るように、連携と情報共有に努めている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時にはホームでの生活状況や、入院までの経緯を医療機関に報告している。退院時は医療機関からの情報を得て元の生活に戻るための支援を行い、連携を図りながら関係作りに努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に説明を行い、同意を得ている。又、重度化した際には医師、看護師、ご家族との連携を図り、ご本人の状態を見ながら情報を共有してチームケアに取り組んでいる。 | 重度化や終末期ケアの指針をもとに、入居時に説明はするものの、ホーム生活のスタートでも必要点をかいつまんで紹介し、その後の状態変化に伴い、時間をかけ詳しく話をするよう統一している。昨年一名の看取りを支援し、不安な中にもホームで対応できたことに職員は安堵感と充実感を得ており、今後も希望があれば出来る限りの支援に努めたいとしている。 | 訪問診療による入居者の状態把握は担当医師との間で十分確認できており、今後も入居者の状態を踏まえつつ新たに入職した職員を交え、終末期ケアに関わる勉強会の機会を期待したい。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急対応マニュアルを基に、定期的な研修、シミュレーションを行い、緊急時に迅速に対応出来るように訓練している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 定期的に防災訓練を行い、災害時に迅速な対応が出来るように訓練している。又、地域の方も訓練に参加して評価をしていただく等、協力体制を作っている。 | 年二回の総合訓練で五月には夜間を想定した避難誘導訓練を実施し、消防署より誘導後の見守りや普段から近隣者と交流を持つことなどが課題としてあがっている。昨年11月の訓練では、推進会議のメンバーも直接加わり、状況を確認してもらいながら共有を図っている。必要な備蓄が少なかったことから、早急に準備し一カ所にまとめ、すぐに取り出せるような状態にするなど改善を図り、遅出者による安全点検を行ない、火を出さない事を前提として取り組んでいる。 | 管理者は地域の一員として地区の防災会議に参加し、地域ぐるみで災害への対応策を検討しており、今後はホームでの訓練に先駆け告知や声かけなどが必要と思われる。また、避難誘導マニュアルの作成を検討しており取り組みが待たれる。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | スタッフ一人一人が言葉掛けには注意し、又、スタッフがお互いに注意し合っている。定期的に研修に参加して、プライバシーに関する認識を深めている。 | ホーム内は職員同士が互いに注意しあえる関係にあり、入居者への言葉使いや対応について気になる点はその都度声を掛け合うよう努めている。管理者は常に入居者の立場になって物事にあたれば、自ずと対応方法がわかるものとして、職員を導いており、入室時のノックと声かけの徹底、個人情報や守秘義務に対する認識を共有し、プライバシー保護に努めている。 | 入浴時の同性介助については今一度、入居者の意向を確認する必要があると思われる。取り組みに期待したい。 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 話しやすい雰囲気作り、声掛けの工夫を行い、ご利用者が笑顔で日々過ごしていただけるような支援を心がけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人一人のペースを把握して、ゆっくり過ごせる時間、場所を提供して、その人らしい生活が出来るように支援を行っている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 更衣時にはご本人の希望を聞いたり、出来る方にはご自分で選んでもらっている。男性のご利用者には、髭剃り等の支援も行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 出来る方には、調理から盛り付け、食器洗い等一緒に行う事で、食事を楽しんでいただけるように支援している。 | 法人栄養士のたてた献立を基に、市場から届いた季節の野菜や、近隣商店で購入した食材を使い作られている。入居者は料理の味見や皿洗い・下ごしらえなどにに関わり、得意分野が活かされている。本年度から取り入れた誕生日支援では、入居者が行きたいところ、食べたいものをリサーチし個別対応の機会ともなっている。 | 食事介助の必要な方へ職員が寄り添い、ゆっくり関わる様子が確認されたが、逆に一人で食事を摂られる方への声かけなども期待したい。また、検食者については今後も検討いただきたい。 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | その方に合った食事形態や食事量を把握して提供し、食事、水分量のチェックを行っている。又、その方に合ったセッティングをして支援を行っている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 一部介助、全介助等、各個人に応じた対応を行っている。状態をご家族に報告、相談を行い、歯科受診の支援を行っている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人一人の排泄パターンの把握を行い、その日の排泄状態を認識し、ご本人の表情や時間に応じて声掛け誘導を行って、トイレでの排泄に努めている。 | 個々の排泄間隔や表情、動きから察知し声かけや誘導を行ない、トイレで排泄する事の喜びや自信に繋げている。自立された方もおられ、布下着のみで生活されるなど入居者の活動を妨げない排泄用品を個別に検討し、コストの面でも工夫している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分、食事摂取量の把握を行い、排泄時に腹部マッサージ等を行うと共に、医師への相談を行う等の支援をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 一人一人の希望、タイミングに合わせ入浴が出来るように配慮を行い、又、ご本人の体調や気分を伺って入浴の声掛けを行っている。拒否がある時は時間を置いたり、他のスタッフの応援を受けて支援を行っている。 | 掃除の行き届いた浴室で週2～3回は入ってもらうよう配慮している。拒否の強い方には無理強いをせず別日にしたり、足湯でさっぱりしてもらうなど臨機応変に対応している。入浴は心身のリフレッシュの機会であり、職員の歌に合わせて一緒に口ずさんだり、会話を楽しむなどコミュニケーションの場としても大切に捉えている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 居室、リビング等は室温調整に気を配り、日中眠気や疲労感が見られる時は状況に応じて居室に誘導して、安心して気持ちよく眠れるように支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | スタッフ全員が処方薬の内容が把握出来るように看護師を中心に話し合いを行っている。薬の変更等がある時は、申し送りノートに記入し、毎日の薬のセット、服用の確認は必ず二人で行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 本人の体調、気分を確認して、家事や色塗り、歌を歌ったり等好みの物を行っていただいている。ご利用者同士で教え合ったり、スタッフに教えたりする事で気分転換になるように工夫している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | その日の体調を把握して、散歩や買い物に出かけたり、地域や本場で開催される行事への参加の支援を行っている。ご家族の方にも声を掛けて、一緒に楽しんでいただけるように支援している。 | 各季節の行事に因み、桜の花見・こいのぼりやコスモス見学・法人行事(夏祭り)などに出かけている。全員での外出はそう多くはないが、地域商店での買い物や誕生日の外出、食事などの個別支援の機会を持たれている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご本人の希望があれば、買い物に出かけて好きな物を買う事が出来るように支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話や手紙のやり取りが出来る方は少ないが、希望があれば電話を掛けたり、手紙のやり取りが出来るように支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節に応じたインテリアの使用や、花を飾る等気を配っている。又、心地よく生活が出来るように冷暖房が効きすぎないように室温調整を行うと共に、換気を行い、湿度にも配慮している。 | ホームの玄関に続く通路には転倒防止や事故の軽減に備え、クッション材を施している。玄関を中心にワンフロアの明るい空間に両ユニットが左右に広がり、入居者が自由に行き来している。壁面の季節飾りも職員がアイデアを出し、ユニットの個性が発揮され手入れが行き届き、清潔に保たれている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | テラスで過ごしたり、リビングではその時の気分でソファや好きな場所で過ごす事が出来るように調整を行っている。又、ご利用者からの希望や訴えがある時は、その都度検討して対応している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご本人やご家族と相談しながら、使い慣れた家具やイス、好みの物を持ち込み、居心地良く生活が出来るように支援している。 | 居室には洗面台やベッド、収納庫が備えられ、職員や家族の手で室内の環境整備が行われている。入居者が愛用していた小物やぬいぐるみがベッドサイドに置かれ、テレビなどの電化製品を持ち込まれている方もいる。どの部屋からもリビングやトイレに近く、動線に配慮した作りとなっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室やトイレなど、解りやすい表示を行い、安全に過ごしていただけるように支援している。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 4390100768 | | |
| 法人名 | 有限会社 ゆうしん | | |
| 事業所名 | グループホーム ゆうしん | | |
| 所在地 | 熊本市西区野中3丁目7-27 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年9月24日 | 評価結果市町村受理日 | 平成26年12月2日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構 | | |
| 所在地 | 熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205 | | |
| 訪問調査日 | 平成26年10月8日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| <p>・ゆっくりとした時間の流れの中で、ご利用者の個々のペースで過ごしていただけるように工夫しています。職員も一緒にお茶の時間や散歩を楽しみ、共に生活する者同士として協力して、家事等を行っています。</p> <p>・スタッフミーティングやカンファレンスを実施して、意見交換を行い、全員で課題に取り組んでいます。又、勉強会や研修会に参加して、個人のスキルアップに努めています。</p> <p>・自治会の行事に参加して交流を深めたり、運営推進会議では情報や意見の交換を行い、地域の一人として協力出来るように取り組んでいます。</p> |
|--|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|--|---|---|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 毎日の朝礼時にスタッフ全員で理念の唱和を行い、日々確認して理解を深めて、実践に繋がられるように努力している。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の回覧板や運営推進会議の情報を基に、町内の一員として清掃活動や夏祭り、文化祭等に参加している。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議等で地域の役員の方への情報の発信を行っている。6月にはささえりあとの協力で地域交流室で認知症サポーターの講習会を開催し、地域の方に集まっていた。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 地域の方やご家族にホームの現状や、活動の取り組みを報告している。又、地域やご家族からの情報や意見をいただき、内容を話し合い、意見交換を行う事で、サービスの向上につながるように努力している。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 2カ月に1回の運営推進会議に、地域のささえりあより参加していただいている。又、必要に応じて相談を行い、助言や協力をしていただいている。毎月1回の介護相談員の受け入れもあり、ご利用者の情報の交換、共有を行っている。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束についての研修を定期的に行っている。ケアの実践の時は、常に拘束に当たらないかを確認しながら、全員で拘束しないケアに取り組んでいる。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 毎月のスタッフミーティングや、定期的な社内研修で、虐待に対する理解を深めている。身体拘束と同様に、これは虐待に当たらないかを考えて、全員でケアに取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見人を活用されているご利用者もおられるので、解らない事は直接尋ねている。又、研修会等での情報を通じて、制度の理解を深める事が出来るように努力している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約に関しては、ご家族に不安や疑問が無いかを確認して、納得できるように説明を行っている。内容をまとめて文書にして、情報が正確に伝わるように努力している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議にご家族も参加していただき、意見や要望を聞く機会を設けている。又、面会時にご利用者の状況報告を行うと同時に、意見や要望がないか尋ねている。玄関にご意見箱の設置を行い、ご家族の意見はいつでも受け付けている。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月1回のスタッフミーティングで意見を出す機会を設けている。又、定期的に個人面談を行い、直接意見や提案を上司に伝える事が出来るようにして、運営に役立つよう取り組んでいる。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 人事部との面談も設定されており、話しやすい環境が用意されている。また、資格取得や、スキルアップの為に勉強会等も定期的に行われて、向上心を持って働きやすい職場になるよう取り組みが行われている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内の定期的な研修や勉強会、外部での研修会等への参加を促し、スタッフ全員のケアの向上に努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホームのブロック会や各研修会に参加して、他施設との交流が出来るように努めている。法人内の施設とも積極的に交流を図り、意見交換等を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ご本人の意思や希望、又は身体機能等を考慮して、新しい環境に馴染んでいただきけるように努力している。又、コミュニケーションを密に行い、信頼関係を築く事ができるように取り組んでいる。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族がホームに求めているもの、期待している事を確認して、ご本人の現状を把握、説明して、今の状態や能力に応じたサービスが提供できるように提案し、信頼関係の構築に努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人とご家族の話し合いを密に行う事で、要望や困っている事を尋ねて、ホームで出来る支援を検討して、必要であれば他のサービスを利用できるよう話し合っている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごしえあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | スタッフはご利用者と一緒に食事を作ったり、掃除や洗濯等の家事を行ったり、買い物や散歩に行く事で、共に生活をしている者同士の意識を持って、日々の生活支援を行っている。 | | |
| 19 | | ○本人を共にえあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族にはご本人の現状を都度お伝えし、必要があれば協力をお願いしている。常に情報を共有しながら連携を図り、ご家族の意向、意見を反映出来るように努力している。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご家族や友人、知人との関係が途切れないように支援を行っている。馴染みの場所にもお連れ出来るように、多くの情報を得て計画、実施できるような取組を行っている。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ご利用者が馴染みのご利用者のお世話をしたり、家事や作業をしたり、レクリエーション等と一緒にいる事で関係を深め、支え合う事が出来るような支援が出来るように努力している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退去されたご利用者の移設先や、入院先などに面会に行ったりしている。要望があれば、ご家族の相談に出来る範囲で応じている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | アセスメントを行う事で、少しでもその人らしい生活が出来るように努めている。ご本人からの思いが聞けない場合は、ご家族の意向を聞いて相談し、ご本人の思いを念頭に置き検討を行っている。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご本人やご家族に生活歴やこれまでの生活環境を伺い、プランに反映出来るように努めている。又、入居前の情報を担当のケアマネや施設から受けてプランの参考にしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | アセスメントや評価、毎日の経過記録を活用して、1日の中でご本人の出来る事、支援が必要な事を見極めて、現状の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 3か月に1回のモニタリング、6か月に1回のアセスメントを行い、スタッフからの情報を収集している。又、ご本人やご家族からの要望も取り入れて、プランを作成している。状態に変化があった場合は都度見直しを行っている。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 記録は時間ごとに記入して、変化があった場合はスタッフ間で報告し、話し合いを行って情報の共有に努めている。又、随時ショートカンファレンスを行い、課題の実践、見直しを行っている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご本人の希望や、ご家族同伴による外出等には、出来る限り対応が出来るようにしている。突発的な医療機関への受診や、急変時の対応もスタッフで行えるように、柔軟に取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 町内の自治会に加入して、回覧板や運営推進会議等から情報を得て、地域の行事に参加している。夏祭り、文化祭、公民館での健康体操等、楽しんで参加出来るように支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入所前にご家族と十分な話し合いを行い、かかりつけ医の選択を行っている。ホーム提携病院以外の受診も情報の提供や交換を行っている。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 毎日のバイタルチェックをも含め、ご本人の状態に変化が見られた場合は、看護師が医療機関への報告を行い、連携を図っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入退院時は医療機関との情報交換をはじめ、ご家族への連絡で状態の確認を行っている。退院ごの生活についてはスタッフが情報を共有して、安心して生活出来るように関係の構築に努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に重度化した場合の指針をご家族に説明して、文書を取り交わしている。その際、終末期に対してのスタッフの取り組みや、ご家族、医療機関との連携についての話もしている。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 定期的に勉強会を行い、迅速な対応が出来るように、救急シート等を作成している。又、スタッフ同士で実践をシュミレーションしてスキルアップに繋げている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 定期的に避難訓練を行い、自治会や消防署からの助言、指導を受けて、避難誘導の周知を図っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | スタッフ一人一人が考え、注意して、ご利用者の人格やプライバシーを尊重した声掛け、対応を行っている。定期的な研修への参加で認識し、お互いに注意し合って取り組んでいる。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ご利用者が話しやすい雰囲気を作り、意思表示がうまく出来ない方でも声掛けの工夫を行い、自己決定が出来るように配慮している。ハイ、いいえの簡単な返事での自己決定が出来るように、プランにも取り込み、支援している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 調理や他の家事等、出来る事は時間がかかっても最後まで出来る環境を提供している。買い物や散歩は希望があればいつでも出来るように支援し、ゆっくり過ごしたい方にはゆっくりとした時間と場所の提供を心掛けている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ご本人に衣類を選んでいただいたり、希望を聞いてその人らしいおしゃれが出来るように取り組んでいる。又、化粧やマニキュアを行い、喜んでいただいている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | スタッフと一緒に小鉢の盛り付けや、食器洗い等を行っている。出来るご利用者は包丁を使用して調理を一緒に行っている。台所に立てない方はおしぼり巻きなどを行っていただき、食事作りに参加出来るように工夫をしている。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | ご利用者の状態に合わせて、刻み食やミキサー食など食べやすいように調整して提供している。こまめに水分補給を行い、摂取量が少ない方には好みの物を提供し、適切な水分量を確保している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後口腔ケアを行っている。ご利用者の状態に合わせてスポンジを使用する等工夫している。夜間はポリドント等の使用により消毒を行い、清潔保持に努め、義歯や歯茎の異常を早期発見できるように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 本人の排泄のパターンを把握して、決まった時間の声掛け誘導と、いつもと違う動きなどのご本人からのサインを見逃さないようにしている。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | トイレ介助時に、ご利用者の状態に合わせた腹部マッサージや、立位や前屈姿勢で腹圧をかけたりと工夫を行っている。又、水分を多めに摂っていただいたり、医師の指示のもと薬の服用で便秘予防に努めている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 本人の希望に沿って入浴出来るように柔軟な対応を心がけている。入浴の拒否がある方には声掛けの工夫をしたり、スタッフが連携して気持ち良く入浴されるように努めている。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ご本人の希望や、眠気や疲労感が強い様子が見られる時は声を掛けて、居室でゆっくりと休んでいただいている。寝具や室温、明かりの調整を行い気持ちよく休めるように支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | ご利用者一人一人の薬の用途や容量を把握しており、症状の変化は見逃さないようにしている。状態の確認、申し送りの徹底を全員で取り組み、服薬支援を行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ご利用者やご家族からの情報や生活歴から、ご利用者の得意な事、興味のある事を見つけて出して、日々のレクリエーションや作業、外出の支援に繋げている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 散歩や買い物等ご本人の希望に沿っていつでも外出出来るように支援している。又、誕生会や季節の行事を計画して、本人の行きたい場所に行く事が出来るようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご家族よりお預かりしているお金は、現金出納帳を利用してスタッフが管理している。必要な物や、本人からの希望があれば、一緒に出掛けて買い物の支援を行っている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご本人より電話の希望がある時は、ホームからかけていただき、かかって来た時は自由に出てもらいお話ししていただいている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | スタッフが毎朝ホーム内の清掃を行い、フロアや居室の温度や湿度を管理して、快適な環境を整備している。又、壁や棚には季節を感じる物や花を飾る等工夫をしている。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | フロアにはテレビやソファ、テーブルや椅子を設置して、ご利用者同士でコミュニケーションが取れる空間や、一人になれる空間を提供している。孤立しがちなご利用者にはスタッフが声掛けを行い、居場所作りに努めている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室に置く家具や小物等は、ご本人やご家族と相談して、安心して過ごす事が出来るように使い慣れた物、好みの物を配置するように工夫している。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ご利用者の歩行の安全を配慮して、ホーム内はバリアフリーになっている。居室は引き戸になっており明け易くなっている。居室を番号で表示する事で分かり易くする等の工夫をしている。 | | |